



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.93



## 10月

発行 / 公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2013年10月1日

### 100歳の誕生日お祝いをヨットで、 90歳でヨットレース参加 日本設計池田武邦・元社長 そしてついでに73歳の私のお話

副会長 森 一郎

今年8月100歳の誕生日を迎えた北川 義さん(女性)は葉山に住んで以来、一度は海上から葉山の景色を見てみたいと、6年前から葉山町主催のヨット体験乗船会に一町民としてご子息と私たちのヨットに毎年おみえになるようになりました。私たちも夏になると心待ちになって久しくなりました。ご子息といっても70代の老人にささえられてハーバーを車椅子で、私たちのヨットにみえました。昨年は手料理を今年は手編みの鍋掃除を持参され、体こそ一人で歩くのはしんどい様子、でも頭は葉山の海のようにすっきりと、洋上でもじっと葉山の山々や裕次郎灯台そして相模湾をながめ、あれはなんとゆう船、あれはどこと、同乗している10歳の子供と会話が弾み、ほんとにしあわせそうな笑顔はヨットクルーにとってなんともうれしい満足感を感じさせるシーンでした。

そして日本設計創設者の一人池田武邦・元社長は今年90歳、6月9日葉山ヨットクラブの初鯉レガッタに参加、クルーは日本設計の元大阪支社長の安原実朗87歳そして私たちヨット仲間がサポート、16艇のクルーザーレース、クルーの平均年齢80歳代でチャレンジ、成績は中庸であったが。

表彰式では満場の拍手でむかえられました。レース後にトロリングで3匹のサバがかかって、池田はヨットで魚が捕れたのは初経験と、やはり海軍兵学校の人は、魚なんてレースでとらない、ちがいがあると、池田は以前からヨットは設計事務所や会社経営と同じと話す、ヨットは自然の恵みを上手に利用して、そして船のデザインさらには乗組員の自分の持ち場を十分理解したベテランたちが一体となってチームワークによる行動を起こして、初めて船は早く走ることができる。どれが欠けてもレースには勝てないと、往年の小笠原レースの覇者のことばはおもい。半世紀前に山下設計から独立100人をスタートに組織設計事務所を創設した時の船長の池田とかさなって説得力がある。

かくゆう私もこの夏で73歳、誕生日は相模湾で100歳の北川 義さんとセーリングした。私は38年間組織事務所の一員として得たチームワークと経験を武器にヨットに例えれば一人乗りで海に出ているようなもの。27年後彼女のように、若者と過ごすことができるか、いや過ごしたい、何よりも多少足腰がおかしくて不自由でも、明晰な老化していない脳に祈るのみかな。……

### 60周年事業内容について

60周年事業実行委員会 委員長 鈴木 裕

すでにご案内の件ですが、創立60周年を期に当協会を広く社会に認知して頂くべく第42回国際ホテル・レストラン・ショーに当協会ゾーンを設定し、広報活動をする事を決定し準備活動に邁進しています。当協会はバラエティーに富む構成会員による観光のハードの面の研究・啓蒙活動を通して社会に貢献しています。そうした当協会独自の能力のなかから代表的なものを選び、活動対象を設定して展示することで協会をご理解頂きたいと考えています。趣旨から会員全員の参加を目指しており、さらには興味をお持ちの新入会員の参加も期待しています。

また、これを期にこれらのテーマについて継続的に活動し内容を充実させていく所存です。今回紹介する活動は、テーマごとに興味のある会員が自由意思により自発的(フリー)に参加し得意とする技術や見解を自由に提案討議して協会としての成果をまとめます。成果は会員のみならず一般にも公表し皆様の活動に利用してもらえたいと思います。これからは、こうした良循環を生み出す手法(オープンソース)をとって行きたいと思えます。

具体的には「日本ブランド」を構築する上で、日本の光である「美しい日本文化」と、21世紀の世界を導く「エコ技術」を融合した活動こそが当協会の目指すべき活動であると考えました。

総合テーマは「美しい日本文化とエコ技術」とし、これを前提にバラエティーあふれる協会会員の専門性から大きく次の4つの活動テーマを選定しました。

- 活動内容は、 1・自然と共生する建築・まち（パッシブ建築）
- 2・エコの現代技術（省エネルギー）
- 3・木の力（木材利用）
- 4・美しいつらえの文化（インテリア）

これらに加えて、5年目となる「エコ達人村」の活動を加えて協会の内容を広く社会に知ってもらうべく、HOTERES JAPAN 2014 に向けて準備をおこなっていきます。会員の皆様にはこうした趣旨を十分ご理解頂き、新しい「皆様自身が活躍する協会活動」に積極的にご参加を頂けますようお願いいたします。

これからは、**会員の皆様がつくり上げる公益社団法人 国際観光施設協会**です。

## 建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会長 森 一朗

楽しく多様な経験が建築部会活動を通じて行えるよう、また協会ならではの人脈が作り上げることができるように予定しております。9月26日表参道の中国茶スクール和諧齋で、中国茶を飲みながら中国茶の歴史とたしなみ方を茶芸師による実技と講演を交えてアフタヌーンティパーティーを開催しました。

来年早々にはみなとみらいの横浜ベイサイドで会員が施工されている開業直後の専門ブライダル施設を見学、最新のブライダル業界の現状を勉強する予定です。幹事会は新規会員の高橋美江さんや竹中工務店の北常務に代わって濱野さんも参加、会場場所も勉強になる施設を予定しています。

## 設備部会活動状況とこれからの予定

設備部会長 横山 豊

設備部会は所属する会員の交流と部活動の活性化を図る目的で一つのワーキング・グループ(WG)を開催しています。今年度は3回開催予定で既に1回開催、施設見学会も2回開催予定で1回目はTOTOテクニカルセンターの見学会を8月30日に開催しました。本年は、協会創立60周年記念事業として総合テーマ「美しい日本文化とエコ技術」から「エコの現代技術」をテーマに、ホテルズ展示テーマ検討分科会を月1回ペースで開催し検討しています。

今後の活動は下記を予定しています。

- H25.11.8：第2回設備部会施設見学会(場所未定)
- H26.2.28：第4回設備部会第3回交流部会開催

## インテリア部会の活動方針とこれからの予定

インテリア部会長 寺本昌志

本年度のスタートに当たりインテリア部会では構成する4つのグループ「セミナー」、「施設見学」、「企業見学」、「新情報発信」のメンバー編成の組替えを行いました。これはこの部会が協会活動を通じて会員の交流を図るといった目的があるのに対し、昨年度までのグループメンバーの構成が既に5年以上経過し固定化していた為、グループ編成を一新して交流の促進を図りたいと考えたからです。ただ各グループの運営に支障を来さないよう、グループリーダーの意見を入れた上での再編成となりました。今年のグループ活動については5月に施設見学グループが5月末で閉館した「ホテル西洋 銀座」の見学会、7

月に新情報発信グループが「宿泊予約サイト 激安価格その実態は」と題し“楽トラベル”の方からお話を頂きました。今後の活動予定としてはセミナーグループで日本のポップカルチャーを世界に発信しているダニーチュー氏に「オタク文化の情報発信を、如何にして日本のInbound アップにつなげるか。」といった内容でセミナーを行う予定となっており、他グループも順次見学会・研究会等の計画を立てております。

## 新入会員紹介 (入会順)

[メーカー] <b>河 淳 株式会社</b>	
(代表者)代表取締役 河崎淳三郎	(担当者)アートウェア-事業部チーフ 池田栄太郎
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 3-15-1	
TEL03-3669-2801 FAX03-3639-3297	
業務内容：建築装飾金物、家具、インテリア雑貨、カーテン等の企画、開発、設計、製造、販売	
[メーカー] <b>日本システム企画株式会社</b>	
(代表者)代表取締役社長 熊野活行	(担当者)海外事業部 次長 森 徹
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-21-12	
TEL03-3377-1106 FAX03-3377-2214	
業務内容：NMR配管保護延命装置、活水器、環境改善機器の製造・販売	

## P 第102回ゴルフ会 案内 P

秋のゴルフ会を11月21日(木)前日に引き続き『姉ヶ崎カントリー倶楽部』(千葉県市原市)にて開催致します。2020年オリンピック開催が東京に決定し、観光業界にとって明るい話題となりました。これを機会に会員みんなで盛り上がり、一層の親睦を深めたいと考えています。多数のご参加をお待ちしております。(プレイ費約19,500円、会費4,000円)

## ◎編集後記◎

HOTERES JAPAN 2014 において開催する創立60周年事業計画が策定され、「美しい日本文化とエコ技術」をテーマにした新たな4つの活動計画が示されました。この4つの活動は、協会の各部門が持つノウハウを存分に発揮できる事業となっており、これらの活動を通じて、協会の事業目的や事業内容をより理解していただけるよう働きかけると同時に、参加企業をより知っていただくための機会にしたいとのことです。折角の機会でもあり絶好のビジネスチャンスと捉えて、積極的に参画し事業を盛り上げてまいりたいと思います。

Y . K